令和５年度　学校経営計画・自己評価書

足立区立梅島第一小学校
校長　　落合　秀章

１　学校教育目標

○思いやりのある子　よりよい生活を目指して相手を尊重し、助け合う子
○考える子　　様々な問題を解決するために、多様な考えをもつ子
○たくましい子　　困難に直面してもあきらめず、より高い目標に向かって努力し続ける心と体をもつ子

２　めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○豊かな心を醸成できる学校 ○確かな学力を身に付けられる学校 ○確かな学び、豊かな心を支える強く健やかな心と身体が育つ学校
○児童・生徒像	○挨拶、感謝、礼儀、謝罪、返事（オ・ア・シ・ス・ハ）を相手に言葉や態度で伝えられる児童 ○思いやりの気持ちをもって、人権を尊重する児童 ○人や社会に迷惑や不快感を与えず、規範意識をもって行動する児童 ○身に付けた知識や技能を駆使して、自ら問題解決に取り組む児童 ○学習や運動に積極的に取り組む児童
○教師像	○教育に対して熱意をもち、謙虚な姿勢で学び続ける教師 ○児童に対して愛あふれる教師 ○向上心をもって職務に取り組む教師

３　学校の現状及び前年度の成果と課題

１学校の現状

令和５年度は、創立９０周年の節目の年である。児童数 275 名　　12 学級

【児童】思いやりがあり、素直で従順な児童が多く、学習や諸活動においては真面目に取り組む。落ち着いた態度で学校生活を送っている。運動会や学芸会等の学校行事で目標に向かって努力することで達成感を味わい、積極的に課題に取り組み、自己肯定感を少しずつ高めている。区学力調査の通過率は、目標の 82%以上を上回り 84.4%という結果であった。

【教職員】学校長の経営方針を受け、教職員は意欲的で前向きに取り組んでおり、組織内の役割を確実に果たそうと努力している。また、小中連携・年次研修・区内外他校研究発表・校内ＯＪＴ・教科指導専門員の指導などにより研修を積んでいる。

【保護者、地域】親子四代、三代の卒業生の家庭が多く、保護者・地域とも学校に協力的である。保護者・地域・開かれた学校づくり協議会の方々との連携事業を継続するとともに質の向上を図っている。学力向上や様々な取組に、学校の成果を評価し期待感も高い。

２前年度の成果と課題

重点的な取組事項－１　学力向上（基礎的･基本的事項の定着　思考力・判断力・表現力の育成）

○数値目標　令和４年４月実施　区学力調査結果　通過率 82%以上
○実施結果　令和４年４月結果　　通過率 84.4%
正答率：国語 75.3%、算数 77.6%　　通過率：国語 86.3%　算数 82.5%

通過率は、目標の82%を上回ることができた。これは、学力向上の取り組み【朝学習の時間での短作文、音読、視写、計算、読書等の実施。金曜日６校時の梅一タイムでの文章読解を中心にした取り組み。算数の授業における１年生からの少人数指導や習熟度別指導。全学年で算数の単元テストにおいて目標値に到達しなかった児童を対象に放課後補習の実施。夏季休業中に６日間の補習（コロナ禍で予定した10日間はできなかった)】の成果であると考える。特に、各学年の算数における通過率が低下したので、算数少人数指導教員にイニシアチブをとらせ、習熟度別授業の進め方について授業改善を図ることが課題である。

重点的な取組事項－２　教師の授業力向上(小・中連携、校内ＯＪＴ、巡回指導等)

○数値目標：校内ＯＪＴ、巡回指導等による授業力向上　児童アンケート「授業が分かりやすい」90%　教員評価「授業力向上」100%

○実施結果：児童アンケート「授業が分かりやすい」88.7%　教員評価「授業力向上」92.9%

小中連携（梅一・島根・十中）合同研究会を実施した。他校の教員と研究授業を通して意見交換し合うことで授業力向上につながった。

校内ＯＪＴは、年間20回実施した。教員が相互に学び合い、高め合う雰囲気が醸成された。

教科指導専門員による巡回指導は、若手教員や教職経験年数の少ない教員を中心に行った。着実に足立スタンダードに基づいた授業は定着している。さらに授業改善を図っていく。

重点的な取組事項－３　心身の健康推進（保護者・地域等との連携）

○数値目標：生活習慣の改善　体力向上　いじめの早期発見と適切な対応　不登校の対応　見逃しゼロへの取り組み　学校事故未然防止の達成率85～100%

○実施結果：概ね良好

生活面の児童アンケートでは、「挨拶」86.8%「言葉遣い」77.3%「早寝、早起き、朝ごはん」74.5%であった。また、体育では、89.0%の児童が「授業に楽しく取り組めた」と答え、75.6%の児童が体力向上を実感できた。特に投力では、講師を招聘しての「投げ方教室」を行い、児童はもちろん教員にとっても有意義な授業となった。また、体力テストに向けて事前に体育主任を講師として、指導者講習会を行った。そこで得た指導技術を基に、各担任が跳躍力や柔軟性などを高めるための体育授業を実施した。

「いじめの早期発見と適切な対応、不登校の対応や見逃しゼロへの取り組み」は、教員評価で「よくできた・できた」の達成率100%となった。また、学校事故の未然防止に向けて児童への安全指導、教員による安全点検を確実に行った。

保護者・地域との連携では、計画していた学校行事や学校公開を予定通り実施した。規模の縮小した運動会や万全な感染防止対策での学芸会、学年ＰＴＡ行事を行うことができ、子供たちは意欲的に取り組んだ。

開かれた学校づくり協議会共催の芝生グリーンプロジェクト、親子ふれあい華道教室、親子盆踊り体験、漢字検定チャレンジ教室は実施することができた。これらは、児童にとって豊かな体験的活動となった。

４　重点的な取組事項

	内　　容	実施期間（年度）　R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	教師の授業力向上（小・中連携、校内ＯＪＴ、巡回指導等）	○	○	○		
3	心身の健康推進（保護者・地域等との連携）	○	○	○		

５　令和５年度の重点目標

重点的な取組事項－１	学力向上アクションプラン

Ａ　今年度の成果目標	達成基準 （目標通過率）	実施結果 （通過率結果）	コメント・課題	達成度 ◎○△●
・学力向上 （知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力）	学力調査　　82% 学力年度末　84%	学力調査　　87.1% 学力年度末　77.7%	目標達成率は、大きく上回ったが、主体的な学習態度が定着すれば、さらに学力は向上していくので、授業改善を一層推進する。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 （誰が、何を、どのように）	達成確認 方法	達成目標 （＝数値） （いつ・何を・どの程度）	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	朝学習 チャレンジ	全学年 国語・算数	週４回	・全教員 ・読書カードを活用して読書の推進 ・漢字練習 ・ＡＩドリルを活用して、算数の苦手な問題に取り組む。	・読書カード ・ミニ漢字テスト ・問題の正答率	・各学年に応じた目標冊数読破 ・全問正解（間違いは直せば正答とする）	児童一人当たりの 1 か月の平均読書冊数が 3.3 冊、1 か月に 2 冊以上の児童は 65%と非常に読書量が少ない。	図書館支援員とも連携し、読み聞かせや本の紹介、読書記録カードを活用して、さらに推進していく。	△
2 継続	ＡＩドリルを活用した放課後補習教室	個別指導を要する児童 算数	放課後、平均 月１回	・全教員 ・単元の学習内容の定着を図るため、ＡＩドリルを活用して苦手な問題に取り組む。	・時間内に行う問題の正答率	・全問正解（間違いは直せば正答とする）	1 月末までに 10 回実施した。目標はおおむねクリアできた。	AI ドリルの活用をさらに推進し、個別のつまずきの解消につなげていく。	○
3 継続	ＡＩドリルを活用した夏季学習教室	個別指導を要する児童 算数	夏季休業中の 10 日間	・全教員 ・ＡＩドリルを活用し苦手な問題に取り組む。	・時間内に行う問題の正答率	・全問正解（間違いは直せば正答とする）	夏季学習教室を 10 日間実施し、目標はおおむねクリアできた。	AI ドリルを積極的に活用し、成果が期待できた。	○
4 継続	話し合い活動の充実	全児童 各教科 ・領域	通年	・全教員 ・話し合い活動により自分の考えを深める。	・授業中の観察や児童のノートなどから見取る。	・教員の自己評価「考えが深まった児童」70%以上	教員自己評価の肯定的評価 81% 児童意識調査「話し合いによる学び」76%	児童が主体的・対話的に学習を進める授業展開に重点を置き授業改善を図る。	○

5 継続	思考力・判断力・表現力の向上	全児童 教育活動全般	通年	・全教員 ・知識・技能の活用を図る学習活動 ・自分の考えを書く活動 ・国語で文章を要約する活動	・児童のワークテスト結果 ・授業中の観察や児童の作品・ノート等から見取る。	・ワークテストの結果 80%以上 ・教員の自己評価「各活動の達成率」80%以上	教員自己評価の肯定的評価 69%	基本的な授業の進め方として、足立スタンダードを徹底していく	△
6 継続	ＩＣＴ機器の活用	全児童 各教科 ・領域	通年	・全教員 ・ＩＣＴ機器の活用方法についての研修会を行う。	・ＩＣＴ機器を授業で効果的に活用する。	・教員の自己評価で「タブレット、AI ドリル等の効果的な活用」80%以上	教員自己評価の肯定的評価 81%	教員によって差はあるが、全体的に ICT 機器を積極的に活用し、効果的な授業展開に努めている。	○
7 継続	家庭学習 （自主学習を含む）	全児童 国語 算数等	毎日	・担任 ・家庭学習習慣をつけ、宿題未提出児童はその日のうちに学校でやり遂げさせる。	・児童アンケート	・児童アンケート「家庭学習を忘れずにできた」85%以上	児童意識調査「宿題や自主学習をする習慣が身についている」70%	家庭学習習慣を定着させるため、引き続き保護者に協力を求める。	△

重点的な取組事項－２	教師の授業力向上（小・中連携、校内ＯＪＴ、巡回指導等）

Ａ　今年度の成果目標	**達成基準**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
・教師の授業力向上 （十中・島根小との連携の推進） （校内ＯＪＴ、巡回指導等）	・校内研修・小中連携・ＯＪＴ・区内外研究会等による授業力向上 90%以上	教員自己評価の肯定的評価 89%	主体的な学習態度が育つようさらに授業力向上を図っていく。	○

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	**達成基準**	**具体的な方策**	**実施結果**	**コメント・課題**	**達成度**
校内研修	・教員の自己評価「校内研修による授業力向上」80%以上 ・「足立スタンダードによる授業」100% ・児童アンケート「授業が分かりやすい」90%以上	・主任教諭による国語、算数の師範授業及び協議会 ・発問、板書等の工夫、ＩＣＴ機器の活用 ・足立スタンダードの徹底 ・学習規律の徹底 ・授業観察、巡回指導等 ・校内ＯＪＴ	・教員自己評価「校内研修による授業力向上」100%　「足立スタンダードによる授業」94%　「ICT 機器の効果的活用」81% ・児童意識調査「授業が分かりやすい」81%	校長が指名した主任教諭２名による師範授業は、若手教員の日頃の悩みや質問に応える指導案作成、公開授業、協議会等を通して充実できた。	◎

小中連携の推進	・年間７回の３校合同研究会 ・教員の自己評価「小中連携による授業力の向上」90%以上	・年間７回の合同研究会 ・十中教員による児童の勉共会実施	教員自己評価の肯定的評価「小中連携による授業力向上」94%	分科会数を減らし、1分科会の人数を増やしたことで、指導案検討や協議会で多面的な意見が出され充実した。	◎
校内ＯＪＴ「若梅塾」	・各職層、校務分掌に応じてベテラン、中堅教員による「若梅塾」の実施 ・教員の自己評価「校内ＯＪＴによる授業力の向上」90%以上	・年間 20 回、管理職、主幹、主任教諭を講師役として、若手教員の要望に応じたテーマに沿ってミニ研修会、アレルギー対応、体力向上等の各種研修会の実施	教員自己評価の肯定的評価「校内 0JT 若梅塾による指導力向上」75%	若手教員に年度始にアンケートを取り、その要望に応じてミニ研修会を実施し、即効性のある指導に生かすことができた。	○
区内外の研究会参加	・区小研参加 90%以上 ・区内外の研究会参加各教員２回以上	・区小研参加 ・区内外の研究会参加 ・各種研修会参加	教員自己評価の肯定的評価「区小研や区内外の研究発表等の参加による授業力向上の効果」88%	区小研には、毎回全教員が参加した。それ以外の各種研修会にも積極的に参加した。	○

重点的な取組事項－３	心身の健康推進（保護者・地域等との連携）

Ａ　今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
・保護者・地域と連携し、健康で明るく生活できる児童の育成 ・健康教育・安全教育の推進を図り、安心・安全な学校づくり	・生活習慣の確立 ・体力向上 ・いじめの早期発見と適切な対応 ・不登校の対応、見逃しゼロへの取組 ・事故の未然防止	教員自己評価の肯定的評価「いじめの未然防止、早期発見と適切な対応、不登校対応」94%	いじめは未然防止を第一に早期発見・対応、不登校は孤立させない取組を継続していく。	◎

Ｂ 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
道徳教育の充実	・教員の自己評価「道徳の授業で自分の考えをもつことができる児童」85%以上	・道徳科の授業改善 ・道徳授業地区公開講座 ・人権標語づくり ・ありがとうカード	教員自己評価の肯定的評価「道徳的価値について話し合い活動を展開する授業」81%、児童意識調査「自分の考えをもてた」83%	児童が取り扱う資料の人物の姿に自己を映し、道徳的価値を深める授業を展開する。	○
学校図書館基本計画の実施	・教員の自己評価「学年目標を達成できた」60%以上	・各学年の目標を設定し、達成を目指し、取り組む	教員自己評価の肯定的評価「学年目標を 60%の児童が達成した」63%	児童一人の１か月平均を５冊以上にする。	○

体力向上	・児童アンケート「体育の授業に楽しく取り組めた」90%以上 ・児童アンケート「体力調査や学習カード等で記録が伸びた」80%以上	・体育授業の改善 ・投力・跳躍力・柔軟性を高める取組 ・学習カードの活用 ・業間運動の実施「持久走」「長縄・短縄」等の取組	教員自己評価の肯定的評価「体育科の授業改善」75%、児童意識調査「体育の授業に楽しく取り組めた」88%、「体力調査や学習カード等で記録が伸びた」71%	男女各8種目計96種目のうち、都平均を上回ったのは 58 種目である。学校全体のＴスコアは、都 50.4、区 50.1 で昨年より伸びた。	○
生活規律の定着	・児童アンケート「早寝・早起き・朝ご飯」80%以上 ・児童アンケート「あいさつ」85%以上 ・児童アンケート「丁寧な言葉づかい」80%以上	・家庭と連携した生活規律の定着 ・生活リズムカード活用年間３回 ・食育の指導 ・「オアシスハ」の奨励	児童意識調査「早寝・早起き・朝ご飯」78%、「相手に伝わるあいさつ」75%、「ていねいな言葉づかい」67%	保護者、地域にも協力を求め、基本的生活習慣やコミュニケーションの基礎となる対人の接し方を培っていく。	△
安心・安全な学校生活の推進	・教員の自己評価「いじめの早期発見と適切な対応」100% ・教員の自己評価「不登校の対応、見逃しゼロへの取り組み」100%	・児童の変化に注視する。 ・未然防止に努める ・アンケートの丁寧な聞き取り ・迅速な初期対応 ・ＳＯＳの出し方教室の開催 ・安全指導の実施 ・安全点検の実施	教員自己評価の肯定的評価「いじめの未然防止、早期発見と適切な対応、不登校対応」94%	いじめ案件は、解消に向かっており、今後も早期発見対応に努める。不登校は孤立させることなく丁寧に対応を続けている。	○
保護者・地域との連携	・教員の自己評価「保護者・地域との連携」90%以上	・「開かれた学校協議会」との連携事業 ・地域行事への参加（祭礼・清掃活動等） ・地域講師の活用	教員自己評価の肯定的評価「保護者・地域との積極的な連携」81%	親子ふれあい華道教室や親子盆踊り体験、書道教室等を今後も充実させていく。	○

６　まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

＜学力向上アクションプランについて＞

・足立区学力調査の通過率は、目標の 82%を上回り 87.1%であった。上昇した要因は、学力向上アクションプランの新規・継続の取組の成果と考える。しかし、学習意識調査では、どの項目も区平均を下回っているため、主体的、意欲的な学習態度が身に付けば、さらに学力の向上が期待できる。そこで今後の課題と対策を下記のように考える。

【課題】

・「勉強が好きだ」と答えている児童は 54.9%（前年比－0.9）、また区平均よりも 11.2 ポイントも低いことから、学ぶ楽しさや「わかった「できた」の達成感、満足感を味わえる授業展開が求められる。

・「宿題がないときでも家で勉強する」と答えている児童は 49.9%（前年比－3.8）、また区平均よりも 10.6 ポイントも低いことから、児童がめあてをしっかり理解したうえで主体的に学習する態度を身に付ける必要がある。

・領域別正答率では、国語の「読むこと」が区平均を上回っているが、他の領域は区平均と同程度である。
・「1か月に本を2冊以上読む」と答えている児童は51.6%（前年比－9.7)、また区平均よりも5.5ポイント低い。
【対策】
・児童に主体的な学習態度が身に付くよう、「足立スタンダード」を徹底し、問題解決学習を習慣づけていく。
・授業力向上研修を充実させ、教員同士が互いの授業を参観し合える環境を整える。
・本校を初任校とする若手教員は、教科指導専門員による授業観察及び事後指導を通し、授業力向上を図る。
・AIドリルを授業や朝学習、家庭学習、放課後補習、長期休業中等で活用し、個別最適化の学習を充実させる。
・各教科でICT機器を効果的に活用し、授業改善を図る。
・図書館支援員と担任、また委員会活動が連携し、「お勧め本の紹介」「読み聞かせ」「読書記録カード」等の取組を継続的に実施していく。

（２）保護者や地域へのメッセージ

・コロナ禍の3年間から影響を感じたことは、特に「コミュニケーション能力」の低下です。本校では人と人との良好な関係を築いていく基礎として、「オ（はようございます）・ア（りがとうございます）・シ（つれいします）・ス（みません）・ハ（い)」をモットーに、「挨拶」「感謝」「礼儀」「謝罪」「返事」を言葉や態度で相手にきちんと伝えられる子供たちを育てていくことに重点を置き、これを教育の根幹としています。子供たちの健全育成にかかわることですので、保護者、地域の皆様にも御理解、御協力をお願い申し上げます。人として当たり前のことをまずは大人が範を示していく地域社会の存在が子供たちの将来に大切な影響を与えると考えます。

（３）その他（学校教育活動全般について）

・開かれた学校づくり協議会や保護者の皆様、地域の皆様の御協力のもと、今後も「芝生グリーンプロジェクト」「華道教室」「書道教室」「盆踊り体験」「芝の上の映画会」を実施してまいります。このような様々な体験的活動により子供たちに豊かな心が育まれていますので、引き続き皆様の御協力、御支援をお願い申し上げます。なお、「漢字検定チャレンジ」の取組は令和5年度で終了いたします。